

UpToDateによる医療の質向上

～ 最新のエビデンスに基づいた
実践的な医療情報のご提供 ～

株式会社ウォルターズ・クルワー・ヘルス・ジャパン



Wolters Kluwer

一般的な医師は日々多くの疑問にぶつかるが。。。



1日 **15～20件**の疑問を持つが
その**60%**は疑問のまま終わる



それらの疑問が解決された場合
5～8件の患者対応が改善される

既存のリソースでは得られない情報がある

□ 既存の情報源(1)

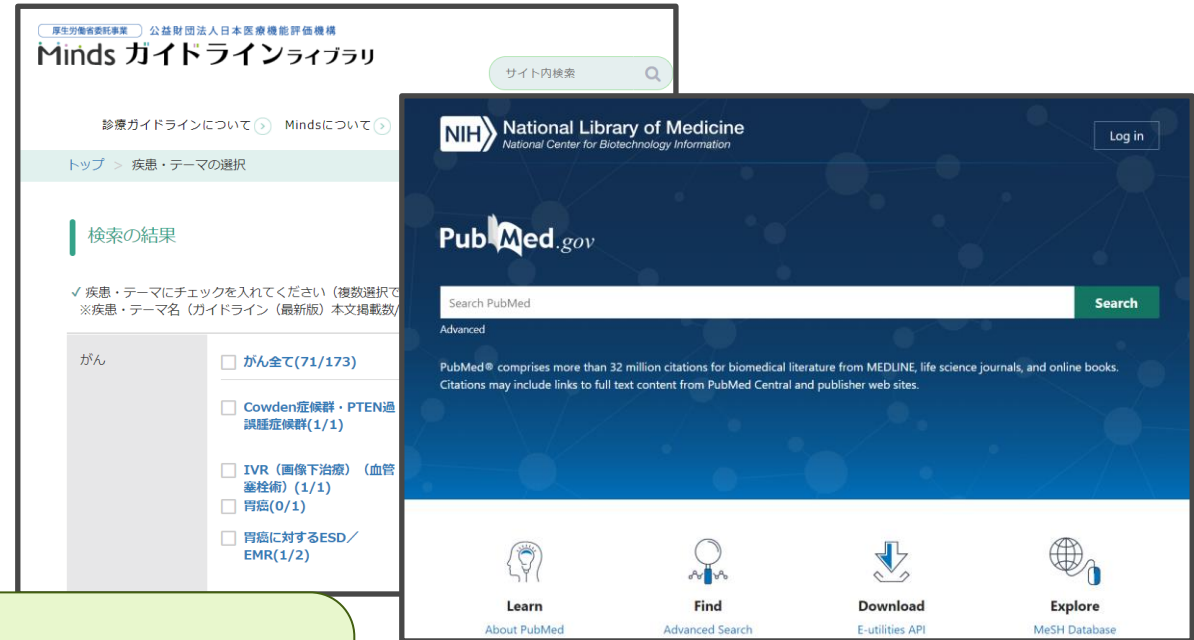
添付文書・インタビューフォーム・製薬企業からの情報提供、など



PMDA; <https://www.pmda.go.jp/>

□ 既存の情報源(2)

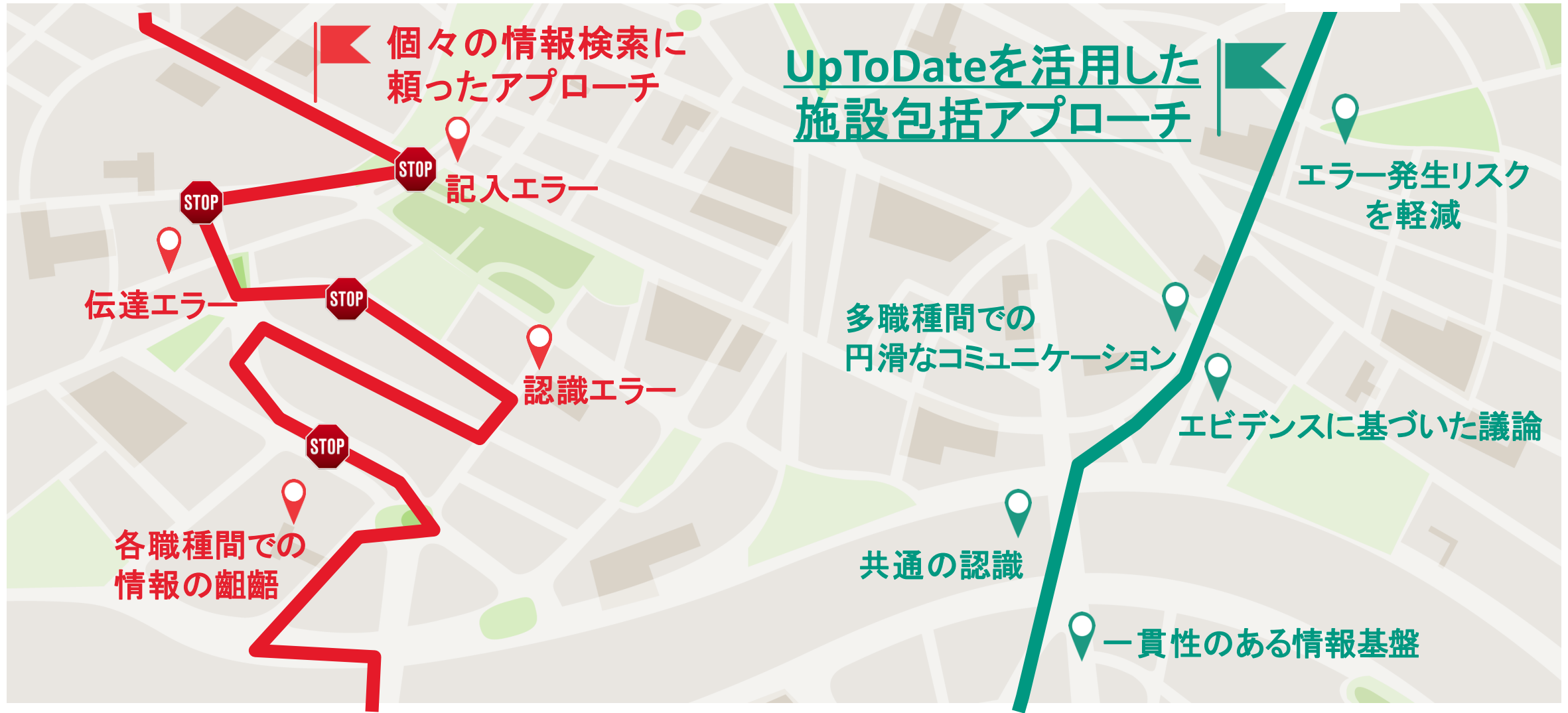
日本語文献/診療ガイドラインの検索・英語文献の検索(PubMedなど)



Minds; <https://minds.jcqhc.or.jp/>
PubMed; <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/>

■ **情報検索の課題** ■
情報過多 ⇒ 確認に時間がかかる
疑問解決に至らないケースがある

情報の「バラツキ」が医療ミスを引き起こす可能性



UpToDateとは

- 世界中の論文からのエビデンスを実践的にまとめた情報源
- 各専門領域への情報は簡単にキーワードで検索
- 530,600の引用参考文献へも直接アクセス可能
- 7,400人を超える世界的に著名な医師がコンテンツを執筆
- 世界のガイドラインや画像情報にもアクセス可能
- 191ヶ国において、200万人以上の医療従事者がご利用
- 日本では、約80%の大学病院にてご導入済み
- 96%のユーザーが自分の意思決定に自信が持てるように

UpToDate コンテンツ作成の流れ

臨床現場で発生する様々な疑問を迅速に解決、意思決定を支えリスクを軽減します。

1. 情報への高い信頼性 2. エビデンスに基づく最新情報の把握 3. 短時間での疑問解決



情報源・リファレンス

- 医学雑誌 **420誌**以上
- PubMed 参考文献数 **53万件**以上
- 診療ガイドライン
- 米国FDA緊急情報
- 医薬品モノグラフ
- Clinical Trial
- 医学教科書

最新記事を
常にウォッチ

著者・編集者・査読者

- **7,400人以上**の
臨床医師・大学教員が
執筆者・編集者・査読者
として医学雑誌や情報源
を確認
- 既存のトピック記事の
更新・改訂の必要性を
日常的に確認

要約・執筆・
レビュー

UpToDate コンテンツ

- **毎営業日情報更新**
- トピック記事
1万2000件以上
- EBM格付け情報付き
推奨治療法 **9,700件**
(Graded Recommendation)
- 医薬品 **7,300件**以上
- 収録画像(表・写真・図)
3万7000件以上

UpToDateで得られる実践的な情報

1. グローバル情報を包括的に網羅

重要な英語文献(一流ジャーナル・診療ガイドライン・規制当局[FDA/EMA]など)を踏まえた記事



2. 最新情報

内容がリアルタイムで最新に更新される



3. エビデンス(1次情報)が常に入手可能 エビデンスとなった論文へリンクからアクセス



4. 高品質な情報

厳格なレビュー・専門家の客観的な見解



UpToDateが可能にすること

- 最新のエビデンスに基づいた情報をピンポイントで収集
- エビデンスとなった論文はリンクからPubMedへアクセス
- 各専門領域の「推奨事項」をエビデンスとともに確認
- 世界中のガイドラインを横断的に入手
- 37,000を超える画像データをパワーポイント資料へ変換可能
- 複数の医薬品を入力して相互作用を瞬時に確認
- 日本プライマリ・ケア連合学会の生涯教育単位取得
- 医師の業務時間短縮（2024年4月からの働き方改革を踏まえ）

UpToDateの活用により外来の誤診が大幅に減少

UpToDateが日本の外来における誤診の減少に与える効果 ～ 徳田安春先生などによる後向き研究 ～

“結果は、誤診の回避および減少に対するUpToDateの効果を証明するものでした。”



獨協医科大学総合診療科 総合診療科教育センター 診療部長・センター長 志水 太郎 先生によるコメント

「コンピューターを使用した臨床知識システムは、その仕組みに対する信頼の欠如や不正確なのではないかという懸念があり、十分に活用されていない可能性があります。しかし、我々の調査が、この懸念が事実ではないことを示しています。UpToDateは臨床的有用性を高め、十分な情報を得た上で自信を持って診断を下せるように医師を導くことで、地域社会への貢献を深められると確信しています」

Source: 2018年4月11日 プレスリリース「日本人医師チームの研究がUpToDateの使用による誤診の大幅な減少を顕在化」



“誤診の顕著な減少がみられた”

UpToDate活用の効果

- 治療の質を向上
- 在院日数の短縮(例:1年あたり372,500日短縮)
- 死亡率の低下(例:3年間で11,500名を救命)
- 医師の時間の節約 – 情報入手まで数分以内
- 不必要な診断検査の回避
- 診断検査結果に対する適切な判断
- 来院患者数の増加
- 患者管理に関する意思決定が改善

UpToDate施設導入のメリット

- **優秀な人材の育成**（日本の約8割の大学病院でUpToDateをご導入済みという実績があり、世界標準の考え方や治療法に触れることで、エビデンスに基づいた高度な医療および教育を実践する土台作りに役立ちます）
- **より良い人材の獲得**（優秀な医師ほど質の高い情報収集が容易に実施可能な環境を構築している病院を求める傾向があります）
- **誤診の減少**（日本の病院での調査結果に基づく）
- **業務時間の短縮**（現場で必要な情報収集作業を効率化することにより）
- **医療の質の向上**（質の高い情報を基に医師が判断を下す結果として）
- **施設の対外的評価の向上**（病院機能評価などの評価基準として）